

<報道発表資料>

令和8年9月28日

京都市総合企画局総合政策室学藝衆構想推進担当

京都学藝衆構想講座

「歌舞伎から京都を読む ― 映画『国宝』の世界、その先へ」の実施

京都市では、多様な世代が京都の多彩な魅力に触れ、学び、交流する「夢中になれる学び合い」の機会を創出する取組として、「京都学藝衆構想」を推進しています。

この度、映画『国宝』をきっかけに大きな関心が寄せられている歌舞伎をテーマに、京都学藝衆構想講座「歌舞伎から京都を読む ― 映画『国宝』の世界、その先へ」を開催します。

本講座では、歌舞伎を単に伝統芸能として学ぶのではなく、京都の文化や社会との関わりから読み解きます。歌舞伎の担い手や支え手の話を通じて、「芸はいかに継承されるのか」「なぜ京都は文化を支え続けてきたのか」について考える機会とします。

1 講座名

「歌舞伎から京都を読む ― 映画『国宝』の世界、その先へ」(全2回)

2 概要

○第1回

テーマ 芸はどのように継承されるのか。

―歌舞伎の担い手・支え手が語る「芸」と「修業」

日時 令和8年10月24日(土) 午後1時から午後3時まで

会場 先斗町歌舞練場(〒604-8003 京都市中京区橋下町130)

登壇者 ナビゲーター 岡崎哲也氏(松竹株式会社顧問)

ゲスト 尾上菊之丞氏(日本舞踊 尾上流家元)

内容 映画『国宝』で描かれた世界を手掛かりに、歌舞伎における修業や芸の継承について学びます。対談では、芸とは何か、型とは何か、身体で学ぶとはどういうことか、若い世代への継などをテーマに語っていただきます。また、参加者同士の対話の時間を設け、「残したい文化とは何か」をともに考えます。

定員 100名程度(先着順)

※ 本講座は連続講座ですので、第2回も御参加いただくことになります。

対象 どなたでも参加いただけます。

○第2回（予定）

テーマ 京都はなぜ文化を支え続けてきたのか

－歌舞伎・京料理・花街文化から考える

日 程 令和8年12月13日（日） 午後1時から午後3時まで

会 場 京都芸術センター（〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2）

登壇者 ナビゲーター 岡崎哲也氏（松竹株式会社顧問）

ゲスト 森川裕之氏（浜作三代目店主）

内 容 歌舞伎を支えてきた人々や仕組みに着目し、京都という都市が 長年にわたり文化を継承してきた背景を探ります。花街文化、京料理、旦那文化、地域社会など、多様な主体の関わりから京都文化の構造を読み解きます。

定 員 100名程度

対 象 第1回の参加者

3 本講座のねらい

映画『国宝』は、芸を極めようとする人々の姿を通して、多くの人々に歌舞伎の世界への関心を喚起しました。一方で、優れた芸は個人の才能だけで成立するものではありません。師弟関係や家、劇場、観客、地域社会など、多くの人々や仕組みによって育まれ、受け継がれてきました。本講座では、歌舞伎を入口として、京都が長年にわたり文化を支え、継承してきた背景や仕組みを学ぶことで、参加者一人一人が文化の担い手として何ができるのかを考えます。

4 申込方法

申込フォームは、10月2日（金）から15日（木）まで、京都市情報館に掲載します。

URL：<https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000356935.html>

5 京都学藝衆構想について

京都学藝衆構想は、多様な世代が文化芸術、伝統芸能、伝統工芸、建築、庭園、自然、スポーツなど京都の多彩な魅力に触れ、学び、交流する「夢中になれる学び合い」の機会を創出する取組です。こうした学び合いを通じて、京都への愛着の醸成や魅力の継承・発信につなげることを目指しています。

6 問い合わせ先

京都市総合企画局総合政策室学藝衆構想推進担当

TEL：075-222-3061